

性別関係なく理系分野で活躍するために？

現状、日本の理系分野の女性はいまだ少ないけれど、世界的な男女比はだんだんと半々に近づいていると感じています。アメリカのハーバード大学では、理系分野の学生の男女比は今やほぼ同数になっています。当然、女の子でもサイエンスやテクノロジーに興味を

持つ人はいるし、女の子でも女性が多いとされている職業などに興味を持つ人もいます。そうした興味を大切にしたいです。そして、興味のある分野で活躍するためには、自分の憧れの人を見つけて、追いかけることが良いと思います。

ただし、「女性だから女性のロールモデル」という考え方に縛られる必要はありません。男性が女性に憧れても良いし、女性が男性を目標にしても良いのです。自由な生き方に気づけないことはもったいないです。

人を性別で見ないことをこどもの頃から心掛けることもやはり大事だと思います。どうしても、育ってきた環境により「これが普通だ」「こうでなくてはいけない」と無意識に考えてしまうからです。例えば、昔のおもちゃには、男の子や女の子用に

枠にとらわれずに

興味や好奇心を持って

自分らしく生きましようよ！



分けられていたものがありました。今は違います。人形一つとっても、多様な人形があります。こどもの頃から遊び方や性の役割、美の定義など、特定のステレオタイプを押し付けられないようにしよう

というところが、世界的な流れになっていっていると感じます。小さなことなのですが、ジェンダーへの意識は、こうやって変わっていくんでしょね。

ジェンダー意識に関して、日本がすべて遅れているというわけでもないと思います。日本の伝統芸能には、性別を超えて役を演じ

る文化が根付いており、ジェンダーの枠にとらわれない表現が長く親しまれてきました。そんな自由な側面はこれからも大切にしていきたいですね。

日常のなかで意識を変えていくコツは？

大切なことです。学びは好奇心によって導かれます。ふと思った「なんでだろう？」といった興味関心を追っていきま。周りの人たちもそれを応援し、自分たちもそのようにいろいろなこと

視野を広げれば自由な生き方が実はあるのに、それができない人もたくさんいます。脳科学の観点から言うと、そのような「気づかないこと」に気づくためには、「好奇心」や「興味」がとても

興味をもつて、自分らしく生きていけば良いのです。その背中を見て、それが当たり前環境で次世代が育っていきま。結局のところ、環境や常識は時代とともに変わっていきます。どんどん誰もが好きなことを目指せるようになって、多様な才能が生まれる世の中になっていくと思えますよ。

大切なことはとらわれないこと。考え方を変えることで、未来は良い方向に変わってきます。

